

「大阪府歯科口腔保健計画」評価（案）

1 「大阪府歯科口腔保健計画（平成 26 年度～平成 29 年度）」の策定

歯と口は、食べる、飲み込む、話すなど、人間の基本的かつ重要な役割を担っている。また、歯と口の健康は、糖尿病、脳血管疾患、心疾患等のNCD疾患（非感染性疾患）、さらには全身の健康の保持・増進にも影響を及ぼす可能性がある。大阪府は健康寿命をはじめとする様々な健康指標が全国と比較して低く、これらを改善するうえでも、歯と口の健康づくりの推進はとても重要である。

そこで、本府では、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期とライフステージ別の取り組みに加え、定期的に歯科健診又は歯科医療を受けることが困難な者に関する取り組みを示し、歯と口の健康づくりを通じて誰もが心身ともに健康で豊かに暮らすことができる社会の実現に向けた施策を総合的かつ計画的に展開していくため、「大阪府歯科口腔保健計画」を平成 26 年 3 月に策定した。

2 「大阪府歯科口腔保健計画」の推進に関する取り組み状況

本計画では、「生涯にわたる歯と口の健康づくりの推進」、「歯科疾患の予防の推進」、「歯と口の健康づくりのための意識づけと実践の推進」の3つの基本方針のもと、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の各ライフステージ及び要介護者、障がい児者等の配慮が必要な方における歯と口の健康づくりに取り組んでいる。詳細は別紙のとおり。

	H27年度～H29年度	取り組み団体	乳幼児期	学齢期	成人期 高齢期	要介護者	障がい児者
正しい知識の普及 啓発や歯科健診の 受診勧奨	講演会、健康まつり、ホームページ等を活用した情報提供	大阪府、市町村、大阪府歯科医師会、地区歯科医師会、大阪府学校歯科医会、大阪府歯科衛生士会、大阪府医師会、大阪府栄養士会、健康保険組合連合会大阪連合会	○	○	○	○	○
歯と口の健康づくりの推進	歯と口の健康週間事業（歯みがき指導、口腔衛生講座、歯科健診、フッ化物塗布等）	市町村、地区歯科医師会	○	○	○	○	○
	全大阪よい歯のコンクールの実施	大阪府、大阪市、堺市、東大阪市、豊中市、枚方市、大阪府歯科医師会	○				
	乳幼児歯科健診後の保健指導・フォローの充実	市町村、地区歯科医師会	○				
	大阪府く歯の保健>図画・ポスターコンクールの実施	大阪府歯科医師会、大阪府学校歯科医会		○			
	「歯と口の健康サポーター」の育成	大阪府、大阪府歯科医師会、地区歯科医師会			○		
	「歯と口の健康サポーター」の連携により、学生の歯と口の健康意識の向上を図る	地区歯科医師会、大学等			○		

	H27年度～H29年度	取り組み団体	乳幼児期	学齢期	成人期 高齢期	要介護者	障がい 児者
歯と口の健康づくりの推進	介護施設等での口腔ケア講習会の実施（～H27年度）	大阪府、大阪府歯科医師会、地区歯科医師会			○	○	
	介護保険における介護予防事業	市町村、関係機関			○		
	・認知症対応型施設職員に対する口腔ケア研修の実施 ・認知症患者の口腔ケアに関する普及啓発（～H28年度）	大阪府、大阪口腔衛生協会				○	○
	地域における在宅歯科医療連携体制の推進	大阪府、大阪府歯科医師会、地区歯科医師会、大阪府歯科衛生士会、大阪府歯科技工士会			○	○	
	障がい児者の口腔ケアに関する普及啓発	大阪府、市町村、大阪府歯科医師会、地区歯科医師会、大阪府歯科衛生士会					○
	障がい児者及び施設職員に対する口腔保健指導	大阪府歯科衛生士会					○
歯科健診・保健指導の充実	「新しい成人歯科保健指導」マニュアルの活用の推進	大阪府、大阪府歯科医師会、大阪府歯科衛生士会			○		
	「新しい成人歯科保健指導」の普及	市町村、地区歯科医師会、大阪府歯科衛生士会			○		
	歯科健診実施後の保健指導の充実	市町村、地区歯科医師会、大阪府歯科衛生士会			○		
市町村・保健所における歯科保健課題に基づく取り組みの実施	大阪府歯科口腔保健推進研修会の実施	大阪府	○	○	○	○	○
	歯科保健課題に基づく取り組みの実施	市町村、保健所	○	○	○	○	○
	地域生涯歯科保健推進員による支援	大阪府歯科医師会、地区歯科医師会、大阪府	○	○	○	○	○

3 評価の目的と評価方法

(1) 評価の目的

「大阪府歯科口腔保健計画」の評価は、計画策定時に設定された目標（平成 29 年度）について、その達成状況を評価し、歯と口の健康に関する課題等を明らかにすることで、次期計画の目標の設定や歯と口の健康づくりの推進に活用することを目的としている。

(2) 評価方法

各目標について、「国民健康・栄養調査」、「大阪府市町村歯科口腔保健実態調査」などにより、目標策定時の値と、直近値又は経年変化からの推定値などとの比較を行い、評価を行う。

判定区分		評価基準
A（達成・概ね達成）		目標達成、または達成率 90%以上
B	B+ （改善）	現状値（目標設定時）より改善 （達成率 50%以上 90%未満）
	B- （やや改善）	現状値（目標設定時）より改善 （達成率 10%以上 50%未満）
C（変化なし）		現状値（目標設定時）から変化がみられない （達成率 -10%以上 10%未満）
D（悪化）		現状値（目標設定時）より悪化 （達成率 -10%以下）
E（評価困難）		基準の変更等により評価ができない

達成率の考え方

■増加目標：

$(\text{直近値又は推定値} - \text{目標設定時の値}) / (\text{目標値} - \text{目標設定時の値})$

■削減目標：

$(\text{目標設定時の値} - \text{直近値又は推定値}) / (\text{目標設定時の値} - \text{目標値})$

— 議論の論点等 —

・判定区分や評価基準の設定、達成率の考え方についての妥当性

4 達成状況と評価

現時点未記入

（各指標の評価結果が確定次第、記入）

5 各指標の評価結果（ライフステージ別）

（1）乳幼児期

指 標	対象年齢	目標設定時の値		直近値	目標値	評価
		(平成 23 年度)	データソース	(平成 26 年度)	(平成 29 年度)	
むし歯のない者の割合 の増加	3 歳	78.4%	母子保健関係業務報告※	81.3%	85%以上	B-
				推定値 (平成 29 年度)		評価
				85.1%		A

※政令市・中核市（豊中市除く）は、大阪府市町村歯科口腔保健実態調査。

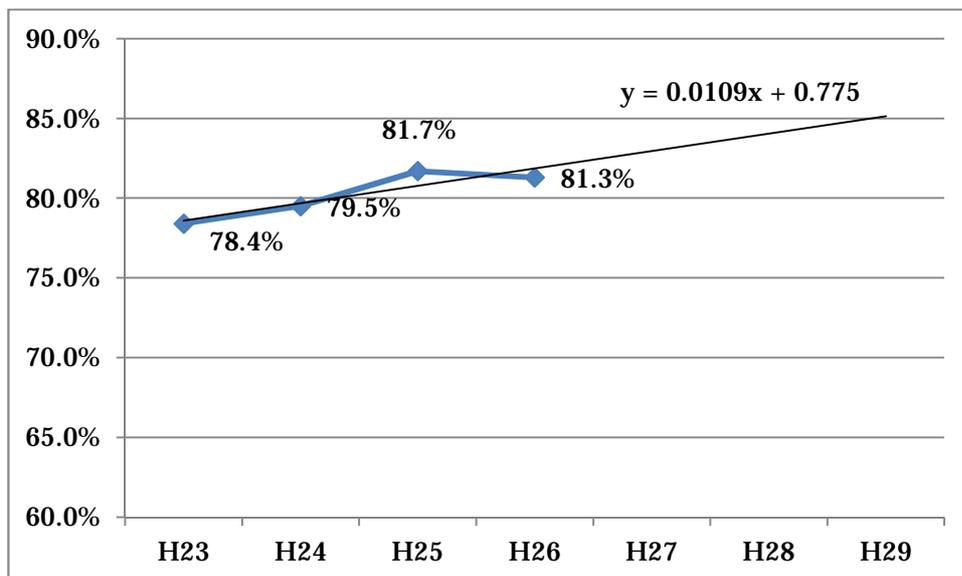
【現状・課題】

- ・3 歳児のむし歯のない者の割合は、増加傾向にある。（図 1）しかし、3 歳児におけるむし歯のない者の割合は全国値よりも低い。
- ・3 歳児におけるむし歯のない者の割合の地域間の差（近似値 78%～84%）は、平成 23 年度（74～82%）と比較すると差は縮まっているが、依然として約 6%の差が生じている。

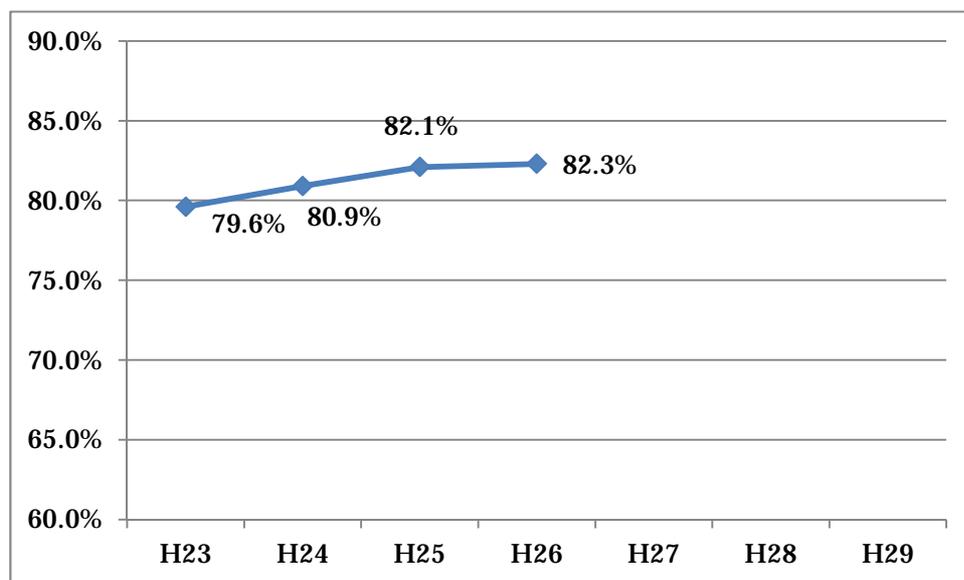
－議論の論点等－

- ・直近値(平成 26 年度)又は推定値(平成 29 年度)で評価することについて

▼3 歳児におけるむし歯のない者の割合（図 1）



▶ (参考) 3歳児におけるむし歯のない者の割合(全国)



(2) 学齢期

指 標	対象年齢	目標設定時の値		直近値	目標値	評価
		(平成 23 年度)	データソース	(平成 27 年度)	(平成 29 年度)	
むし歯のある者の割合 の減少	12 歳	47.9%	学校保健統計調査	39.7%	40%以下	A
				推定値 (平成 29 年度)		評価
				36.6%		A
指 標	対象年齢	目標設定時の値		直近値	目標値	評価
むし歯のある者の割合 の減少	16 歳	56.3%	学校保健統計調査	(平成 23 年度)	(平成 27 年度)	(平成 29 年度)
				データソース	直近値	目標値
むし歯のある者の割合 の減少	16 歳	56.3%	学校保健統計調査	53.3%	45%以下	B-
				推定値 (平成 29 年度)		評価
				47.7%		B+

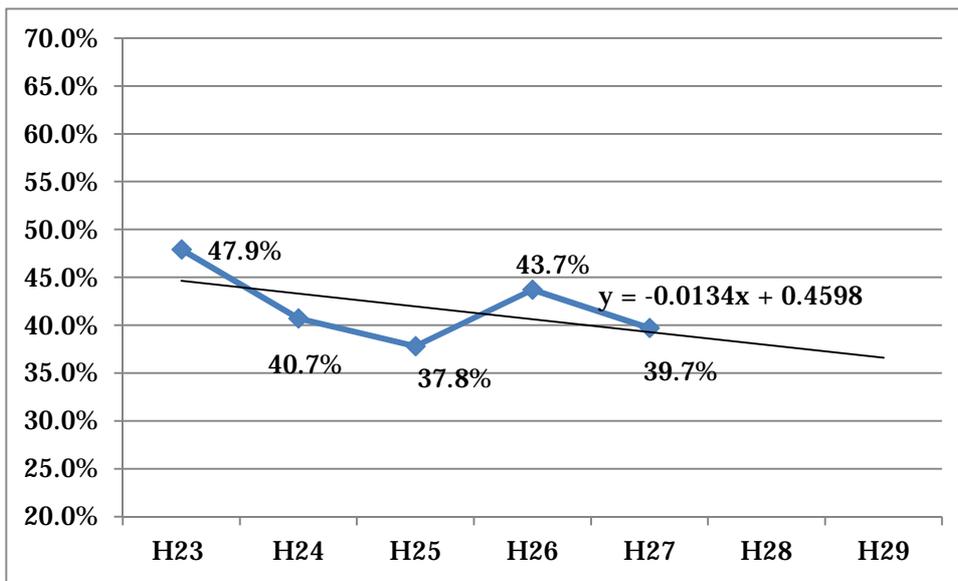
【現状・課題】

- ・中学生（12 歳）、高校生（16 歳）のいずれの年齢においてもむし歯のある者の割合は減少傾向にある。（図 2-1、図 2-2）
- ・高校生（16 歳）では、むし歯のある者は、約 50%である。（図 2-2）

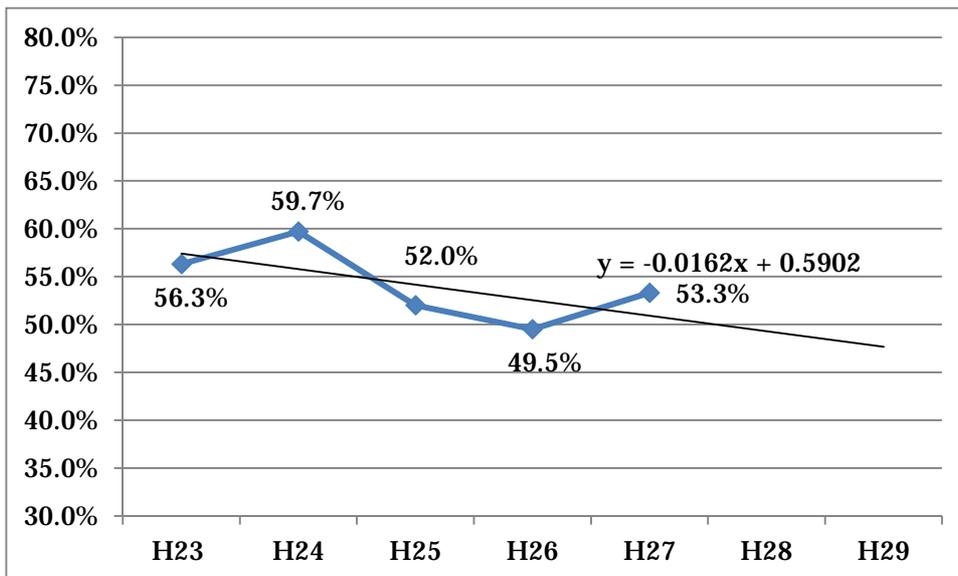
— 議論の論点等 —

- ・直近値(平成 26 年度)又は推定値(平成 29 年度)で評価することについて

▼中学生（12歳）におけるむし歯のある者の割合【図2-1】

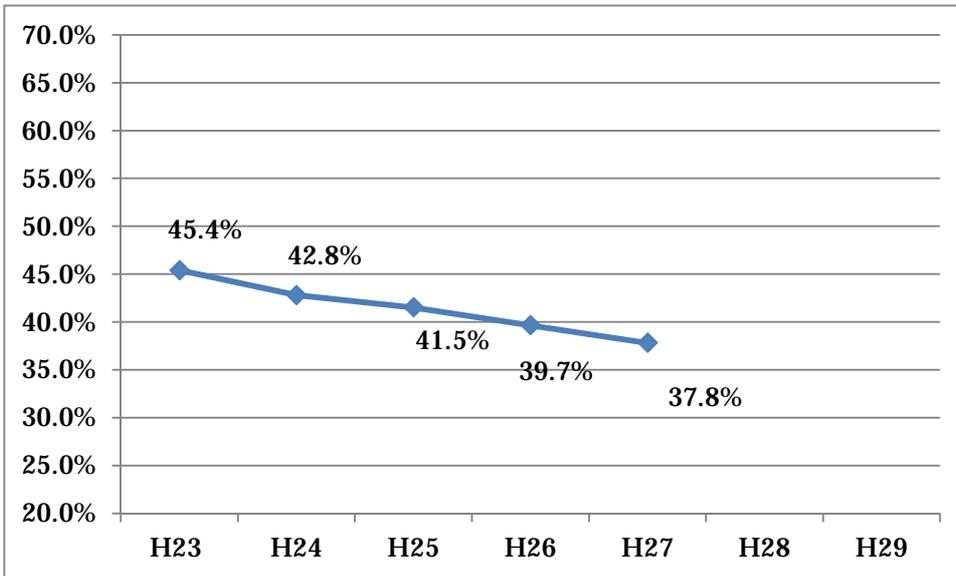


▼高校生（16歳）におけるむし歯のある者の割合【図2-2】

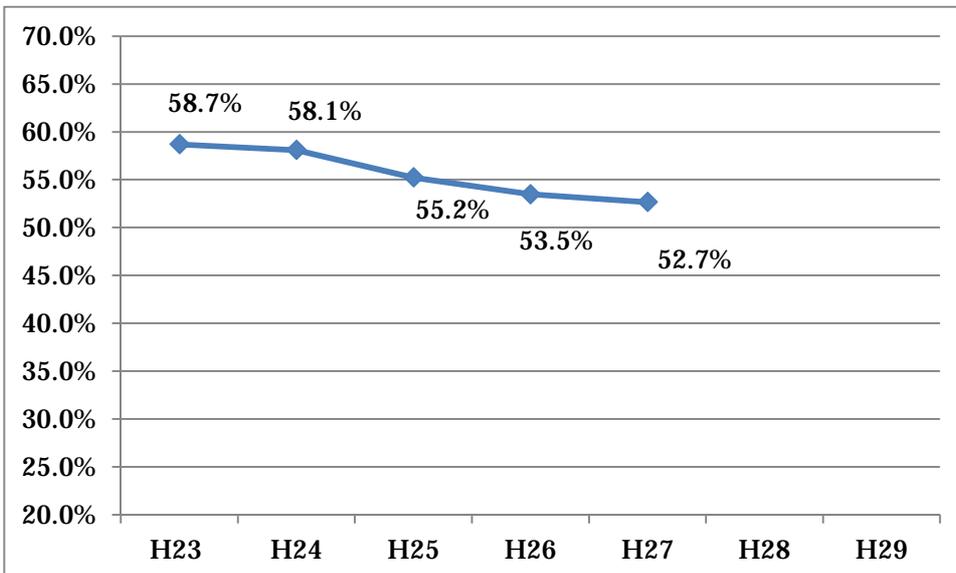


▶ (参考) 12歳と16歳におけるむし歯を有する人の割合(全国)

12歳



16歳



(3) 成人期・高齢期

① 歯の喪失状況に関する目標

指 標	対象年齢	目標設定時の値		直近値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 29 年度)	評価
		(平成 23 年度)	データソース			
24 本以上の歯を有する者の割合の増加	60 歳	56.8%	国民健康・栄養調査		65%以上	
20 本以上の歯を有する者の割合の増加	80 歳	33.3%	国民健康・栄養調査		40%以上	

－ 議論の論点等 －

・データソースは目標設定時と同様に、「国民健康・栄養調査」により、直近値を把握し、評価することについて

② 咀嚼良好者の割合の増加に関する目標

指 標	対象年齢	目標設定時の値		直近値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 29 年度)	評価
		(平成 23 年度)	データソース			
咀嚼良好者の割合の増加	60 歳以上	70.1%	「食育」と「お口の健康」に関するアンケート調査		75%以上	

－ 議論の論点等 －

・データソースは目標設定時と同様に、アンケート調査を行うことで直近値を把握し、評価することについて

③ むし歯に関する目標

指 標	対象年齢	目標設定時の値		直近値	目標値	評価
		(平成 23 年度)	データソース	(平成 26 年度)	(平成 29 年度)	
むし歯治療が必要な者の割合の減少	40 歳	31.0%	大阪府市町村歯科 口腔保健実態調査	37.9%	25%以下	D
				推定値 (平成 29 年度)		評価
				37.7%		D
指 標	対象年齢	目標設定時の値		直近値	目標値	評価
むし歯治療が必要な者の割合の減少	60 歳	24.4%	大阪府市町村歯科 口腔保健実態調査	30.5%	18%以下	D
				推定値 (平成 29 年度)		評価
				30.9%		D

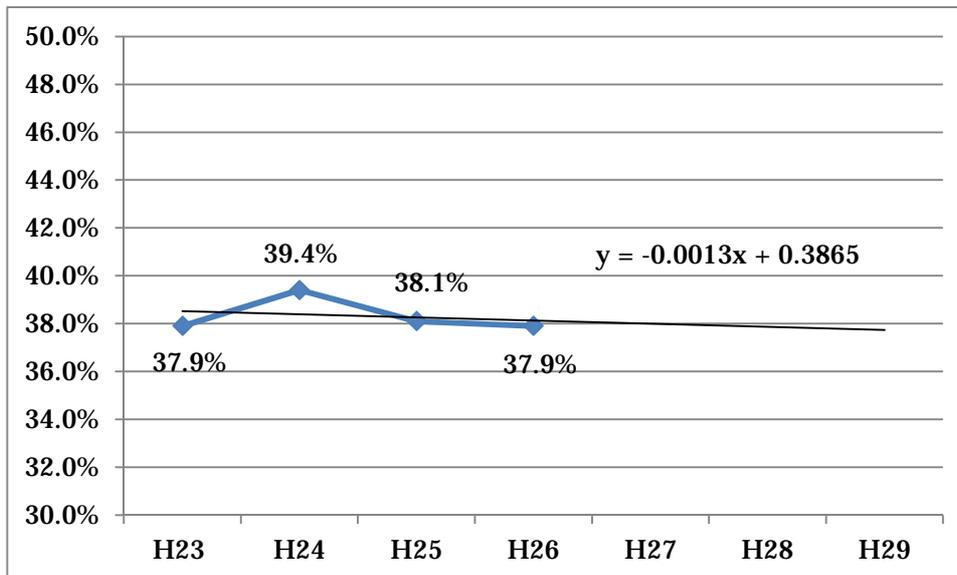
【現状・課題】

- ・40 歳、60 歳ともむし歯の治療が必要な者の割合は改善していない。(図3-1、図3-2)

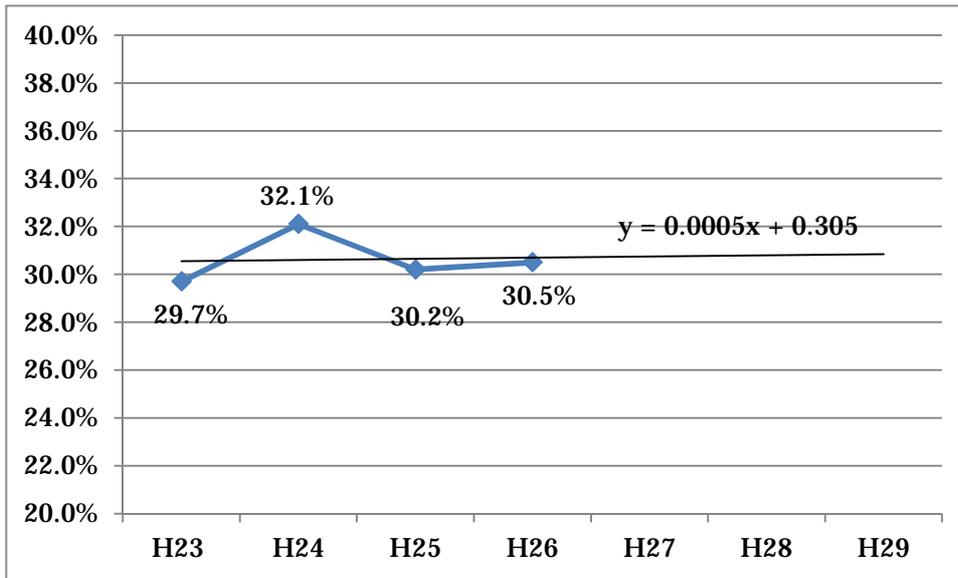
—議論の論点等—

- ・直近値(平成 26 年度)又は推定値(平成 29 年度)で評価することについて

▼むし歯治療が必要な者の割合の減少(40 歳)【図3-1】



▼むし歯治療が必要な者の割合の減少（60歳）【図3-2】



④ 歯周病予防に関する目標

指 標	対象年齢	目標設定時の値		直近値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 29 年度)	評価
		(平成 23 年度)	データソース			
歯周病の自覚症状のある者の割合の減少	20・30 歳代	23.9%	「食育」と「お口の健康」に関するアンケート調査		20%以下	
喫煙と歯周病の関係について知っている者の割合の増加	20 歳以上	44.3%	「食育」と「お口の健康」に関するアンケート調査		50%以上	
糖尿病と歯周病の関係について知っている者の増加	20 歳以上	33.7%	「食育」と「お口の健康」に関するアンケート調査		40%以上	

— 議論の論点等 —

- ・データソースは目標設定時と同様に、アンケート調査を行うことで直近値を把握し、評価することについて

指 標	対象年齢	目標設定時の値		直近値	目標値	評価
		(平成 23 年度)	データソース	(平成 26 年度)	(平成 29 年度)	
歯周治療が必要な者の割合の減少	40 歳	40.0%	大阪府市町村歯科 口腔保健実態調査	45.0%	33%以下	D
				推定値		評価
				(平成 29 年度)		
				48.0%		D
指 標	対象年齢	目標設定時の値		直近値	目標値	評価
		(平成 23 年度)	データソース	(平成 26 年度)	(平成 29 年度)	
歯周治療が必要な者の割合の減少	60 歳	50.6%	大阪府市町村歯科 口腔保健実態調査	53.4%	48%以下	D
				推定値		評価
				(平成 29 年度)		
				54.7%		D

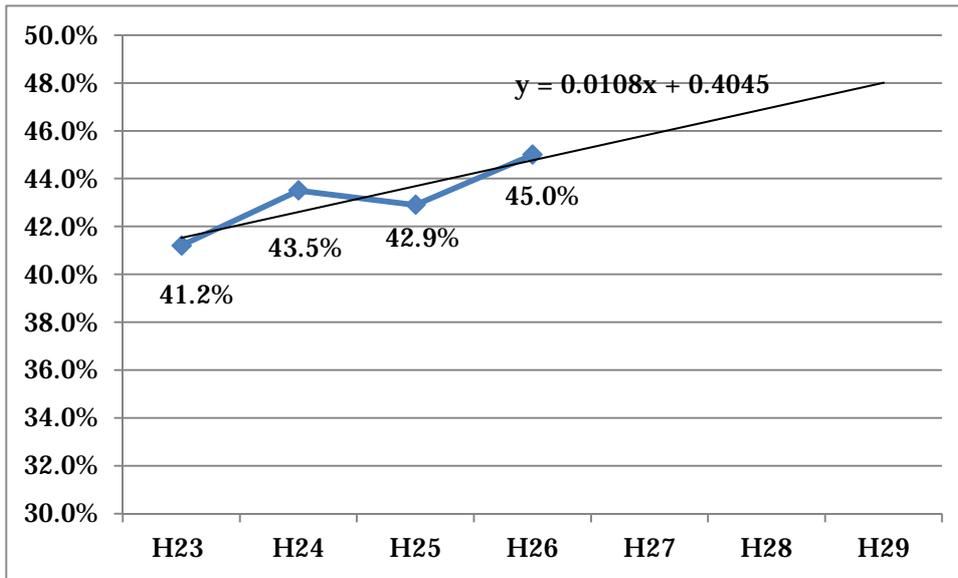
【現状・課題】

- ・ 40 歳、60 歳とも歯周病の治療が必要な者の割合は改善していない。(図 4-1、図 4-2)

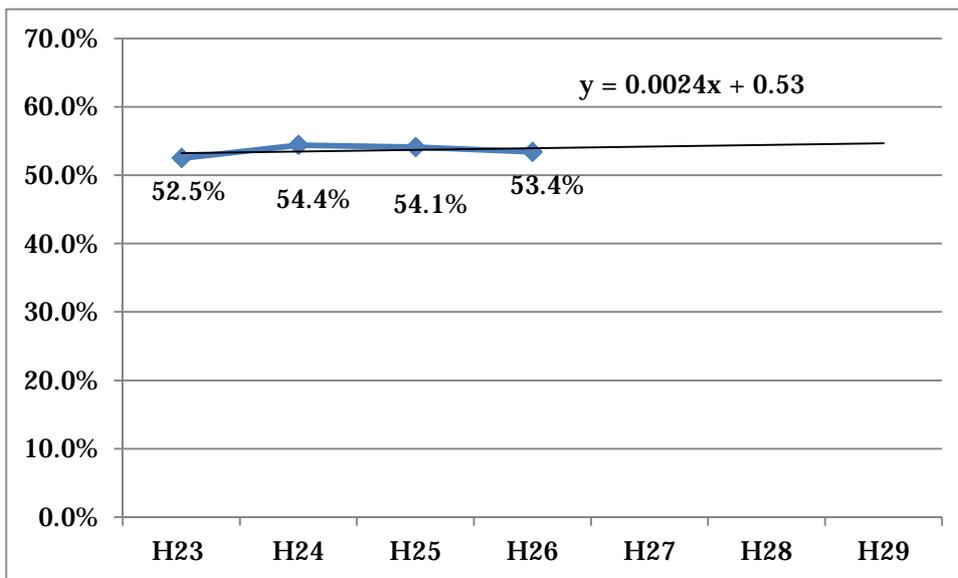
－議論の論点等－

- ・直近値(平成 26 年度)又は推定値(平成 29 年度)で評価することについて

▼歯周病治療が必要な者の割合の減少（40歳）【図4-1】



▼歯周病治療が必要な者の割合の減少（60歳）【図4-2】



⑤ 歯と口の健康づくりのための意識づけと実践の推進に関する目標

指 標	対象年齢	目標設定時の値		直近値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 29 年度)	評価
		(平成 23 年度)	データソース			
過去 1 年に歯科健診を受診した者の割合	20 歳以上	46.0%	「食育」と「お口の健康」に関するアンケート調査		55%以上	
かかりつけ歯科医を有する者の割合の増加	20 歳以上	68.5%	「食育」と「お口の健康」に関するアンケート調査		70%以上	

— 議論の論点等 —

・データソースは目標設定時と同様に、アンケート調査を行うことで直近値を把握し、評価することについて

指 標	対象年齢	目標設定時の値		直近値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 29 年度)	評価
		(平成 23 年度)	データソース			
歯間部清掃用器具を使用する人の割合の増加	50 歳	51.2%	府民の健康と生活習慣に関する調査		55%以上	
歯間部清掃用器具を使用する人の割合の増加	60 歳	53.3%	府民の健康と生活習慣に関する調査		60%以上	

— 議論の論点等 —

データソースは目標設定時と同様に、アンケート調査を行うことで直近値を把握し、評価することについて

(4) 定期的な歯科健診を受けることが困難な人

指 標	目標設定時の値		直近値 (平成 28 年度)	目標値 (平成 29 年度)	評価
	(平成 24 年度)	データソース			
介護老人保健施設での定期的な歯科健診の実施の増加	17.3%	府内の介護老人保健施設における歯科保健の取り組みについての調査		35%以上	
障がい児及び障がい者入所施設での定期的な歯科健診の実施の増加	58.1%	府内の障がい者(児)入所施設における歯科保健の取り組みについての調査		75%以上	

【現状・課題】

- ・介護老人保健施設及び障がい児者入所施設とも定期的な歯科健診の実施率が低い。

－議論の論点等－

データソースは目標設定時と同様に、アンケート調査を行うことで直近値を把握し、評価することについて